

殿原寺の六観音像（1/2）

～殿原寺（でんげんじ）・殿原寺の六観音～

分野 歴史

地域 浜玉

◎地図・写真・統計資料など



殿原寺の観音堂
佐用姫の姿を写し取った観音像「佐用姫観音（根木観音とも呼ばれる）」があり、60年に一度御開帳される。
(唐津観光協会HPより)

■殿原寺（でんげんじ） 唐津市浜玉町平原座主（ひらばるざす）

殿原寺の寺史に関する史料は皆無にひとしく、創建の時期はわからない。佐用姫伝説を基にしてつくられた縁起や寛政元年（1789）に著された『松浦古事記』には、本尊聖観音像は百済の僧曇恵・道探が彫ったという伝説が見られるにすぎない。

しかし、殿原寺にかかる観音堂には焼け残った「一木造（いちぼくづくり）」の堂々とした六軀の仏像が保存されており、また、昭和35年に殿原寺近くの山麓から経塚が発見され、平安時代の銅製経筒が出土した。他にも他の経塚から出土したとみられる滑石製の仏像が観音堂に伝存している。このようなことを考えあわせると、平安時代でも11世紀頃に殿原寺が存在していたことはほぼ疑う余地がない。

松浦荘は初め筑後守国兼の私領であったが、12世紀後半には最勝光院領になっている。次いで『吾妻鏡』は文治2年（1186）に筑後草野永平が鏡神社の大宮司に任せられたことを記している。このことは、鏡神社領を所領としたことになる。その所領は現在の松浦川以東の「松浦東郷」といわれる松浦郡一円と推定される。

その頃、殿原寺が鏡宮座主松浦僧都政所防として、史料に登場する。すなわち「殿原寺文書」の貞応元年（1222）、殿原寺の座主職をめぐる僧貞重と、鏡宮神宮寺僧源実との間に争論があり、東寺の一院と思われる宝蓮華院政所に訴状が出されている。これでわかることは、殿原寺の座主職は義覚から代々伝わってきたもので、手継証文をもって受継がれていることがわかる。いま殿原寺に残る六観音は真言密教の伝統にのっとり今日に伝えられているものと思われる。

戦国時代の天正2年（1574）、松浦地方に勢力をのばしてきた龍造寺隆信と草野鎮永の平原の合戦で、殿原寺があった座主や平原一帯の建物の大半は焼かれ消失した。河上神社の棟札によると、河上社は天正17年（1589）波多親（ちかし）によって再建されている。殿原寺も罹災したと考えられる。いま観音堂に安置されている前述の焼仏の六軀はその時の火災で焼けたものであろう。

江戸時代、平原は天領となる。殿原寺の再興は平原村や周辺村々の人たちによって再興はすすめられていたものと思われ元禄13年（1700）銘のある鰐口（わにぐち）の奉納、現存する六観音中の准胝観音像（じゅんてい）正徳4年（1714）の修理（修理の胎内納入木札）、文化7年（1810）銘の鰐口の更なる奉納、観音堂正面には黄檗（おうばく）沙門脉敬（えいけい）書「殿原寺」の扁額（へんがく）の奉納がそれを物語っている。

～2/2へつづく～

◎引用・参考文献（出典）

- ◆佐賀県殿原寺の六観音像／田鍋隆男
- ◆『浜玉町史』浜玉町教育委員会
- ◆『佐賀県の文化財』佐賀県教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

殿原寺の六観音像（2/2）

～殿原寺（でんげんじ）・殿原寺の六観音～

～1/2よりつづき～

■殿原寺の六観音

殿原寺には六軀の観音像が焼けずに伝存している。地域の人たちはこれを「六観音」と称して堂内の基壇に安置し、篤く信仰している。六観音とは、衆生（しゅじょう）が善悪業（ごう）によって死後迷界（めいかい）である地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天道という六道に輪廻転生（りんねてんしょう）したとき救いの主となる六軀の観音をいう。平安時代中頃、真言宗では仁海（にんかい）僧上が聖観音で地獄道を、千手観音は餓鬼道を、馬頭観音は畜生道を、十一面観音で阿修羅道を、准胝（じゅんてい）観音で人間道を、如意輪（にょいりん）観音で天道を救うことを定めたのが最もよく知られている。人々は苦しみの多い汚れた世界を離れ、極楽に住生するよう観音に救済を願ったのである。殿原寺の六観音は佐賀重要文化財（彫刻）に指定されている。

■木造観音立像 像高 2.05メートル

強い香気を放つ樟（くす）材による丸彫り像で、内割（うちぐ）りはされていない。他の五軀の仏像と比較すると異常に大きい頭部をし、全体の彫刻表現には稚拙さが見受けられる。この像は「根木観音（ねぎかんのん）」と称されていることから推察すると「立木（たちき）観音」の系統の像と思われる。形状の古さからみると、この像以前に立木観音の古像があって、後世それに似せて木像を彫刻したものと考えられる。室町時代に制作されたものであろう。

■木造准胝観音像 像高 1.48メートル

他の五軀より像高が一段低い。目は見開きを大きくし、体軀は引締り、衣の処理・表情にも緊張感がある。構造は両肩先に当る手の部分を除いて桧（ひのき）の一材から彫り出し、頭と体を首の下で割り放し（わりはなし）、さらに前後に割って内割（うちぐ）りを施している。本像は平明さと優美さを兼ね備えた優品で、平安時代の藤原様式をよく伝えている11世紀中頃に制作されたであろう。

■木造馬頭観音立像 像高 1.78メートル

■木造如意輪観音立像 像高 1.72メートル

■木造十一面観音立像 像高 1.70メートル

■木造千手観音立像 像高 1.65メートル

この馬頭・如意輪・十一面・千手の四軀は准胝観音に比べていずれも顔立や体形のとらえ方、衣の襞（ひだ）の処理に穏さが目立つ。内割りを施す。形状からは同一工房、同一時期の制作と考えられる。制作の時期は准胝観音より少し遅れて平安時代後期になる12世紀の制作であろう。

※我が国では古木には特別に靈威が宿るとする日本固有の靈木信仰があるが、根付いた立木のままの靈木に仏菩薩仏像を彫刻し、功德や靈威を表そうとした。「立木観音」もその一種である。

分野 歴史

地域 浜玉

◎地図・写真・統計資料など



六観音像は河上神社境内の「殿原寺」の額を掲げる御堂に安置されている。（『唐津探訪』より）



御堂に安置されている六観音像趣を同じくする5体（左より准胝、十一面、千手、如意輪、馬頭観音菩薩立像）（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆佐賀県殿原寺の六観音像／田鍋隆男
- ◆『浜玉町史』
- ◆浜玉町教育委員会
- ◆『佐賀県の文化財』佐賀県教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html